

年 組 (番) 名前

記入日 月 日

木製の建て替えて地元・安渡地区の小国忠義さん(右端)から話を聞く県立大槌高の生徒たち(2月28日、岩手県大槌町で)



岩手・大槌

東日本大震災の津波被害に遭った岩手県大槌町の安渡地区で、教訓を伝える木製の碑が3月10日、建て替えられる。わざと劣化する木材で碑を作り、4年ごとに建て替えるよう提案したのは地元高校生で、「思いを伝えていきたい」と話している。

碑を建て替え

東日本
大震災
10年

あえて木製 教訓を伝える



木製の碑が最初に設置されたのは震災2年後の2013年3月11日。県立大槌高校の生徒が住民に「石で作った碑はやがて誰も見なくなり、風景の一部になってしまおう。木製の碑を作り、建て替えることが、教訓を伝えることにつながる」と持ちかけた。

地区では住民の1割を超す約220人が犠牲になった。「津波はここまで来ない」と避難しなかったり、貴重品などを取りに自宅に戻って津波にのまれたりした住民もいたため、碑の正面に「大きな地震が来たら戻らず高台へ」と記すことにした。

寄付金で費用を工面した木製の碑は高さ1・6メートル、海抜12・5メートルの津波到達地点に設置した。17年3月11日の建て替え時は、側面に「誰かの命を助けたのなら 代わりのない自分から」などの文章を加えた。

今回は、側面を「日頃から備えておくこと(備えておくこと)が笑顔につながる」と地元の言葉を生かした言葉を書いた。

大槌高3年生で、祖母の家が津波で流された八幡大翔さん(17)は「いつ震災が起きるかはわからないという思いから、『備え』の言葉を入れようとみんなで作った」と話した。当初から碑に関わる小国忠義さん(80)は「風化させないという気持ちで、これからも建て替える続けていく」と話している。

(2021年3月1日 読売新聞夕刊より)

1 碑はなぜ、4年ごとに建て替える必要があるのですか。最も適切なものを選び、番号で答えましょう。

- ① 石で碑を作るのに必要な寄付金が集まらなかったから。
- ② 建て替えをすることで、津波のことを考えることができるから。
- ③ 建て替えが必要のない碑を作る技術がないから。
- ④ 石の碑には、言葉を書くことができないから。

2 筆者が読者に伝えたかったのはどのようなことですか。最も適切なものを選び、番号で答えましょう。

- ① 災害を伝える碑を建てるための寄付金集めには、協力すべきだと感じてもらうこと。
- ② 地元住民よりも高校生の意見の方がすぐれているということを知ってもらうこと。
- ③ 災害の教訓は、時々思い出さなければ忘れてしまうということに気付いてもらうこと。
- ④ 石の碑の方が、風景の一部になって地域の雰囲気^{ちいきふんいき}に溶け込めることを知ってもらうこと。